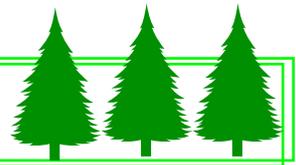




みつぎ便り



第181号 10月号 令和3年10月1日発行 http://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report

板橋区役所南部土木サービスセンターの花づくりグループとエコポリスセンターのかんきょう観察員地域自主活動グループに所属しているボランティア団体「見次の会」です

ダンドボロギク

北アメリカ原産の一年草で、キク科の帰化植物で、「ダンド」とは漢字で《段戸》と書き、一九三三年愛知県設楽町の段戸山で初めて記録されたことから付けられました。

草丈は一五〇cm程度まで伸び、花は黄色の筒型で、葉は互い違いに付き、縁にはギザギザがあつて花の後にはタンポポのような白い綿毛を付ける。その綿毛が長くて細いために絡まりあい、ぼさぼさとしたボロ布のような姿に見えたことから、発見地とあわせた名前となりました。ボロギクとは何とかかわいそうな名前が



付けられたものかと思っていたが、すっかりとした理由があつたようです。

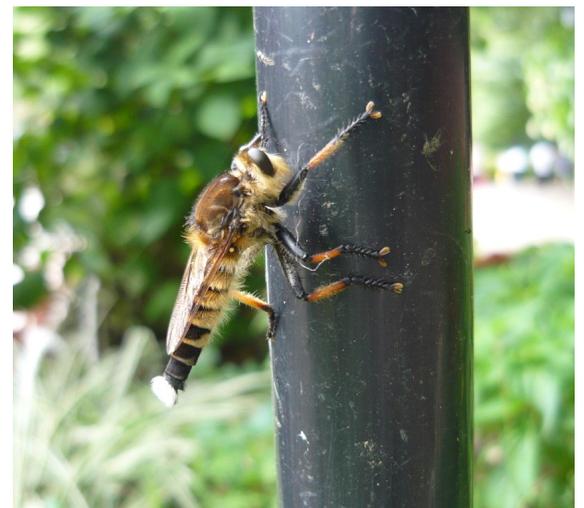
ダンドボロギクの葉は秋になると固いが、若葉は春菊のような味と食感が楽しめるという。見次公園では郵便ポストのある坂側の出入り口近くに生えています。

(利)

シオヤアブ

アブ(虻)をご存じだと思いますが、嫌なイメージをお持ちの方がほとんどでしょう。特に、夏場にお多く見られ、うるさく、人の回りを飛び交い不快な経験されたことが何度かあつたことでしょう。

今回は、公園にきていた昆虫のハシロとも呼ばれている、シオヤアブ(塩屋虻)を取りあげます。シオヤアブはムシヒキアブの仲間で、体長は3cmほどで、胸は茶褐色で毛に覆われています。腹部も毛に覆われ黄色と黒の縞模様に見えます。足は黒で、すねの部分だけが黄褐色をしています。オスは腹の先に白い毛の



塊があり、これが塩の様に見えることが名前の由来となっています。

鳥の猛禽類の様に、見晴らしのよい枝の先端に滞在しているアブが、複眼を使って今自身がいる位置から数メートル先のコガネムシなどの獲物を確認する。そしてその確認した中から狙いを定めた獲物を背後から一気に襲う。時には自分より大きなスズメバチなどを捕らえ、近くの枝や葉に留まり体液を吸います。アブと聞くとうるさいと思わず、害虫などの虫も捕まえてくれる、アブの間もいることも忘れないうでください。ちなみに、人が刺されることは低いそうです。

(圭)